

診療所を中核とした地域医療経営人材育成プログラム 授業計画

授業科目名	医療経済学	担当者	西村周三	実施月	2019 年度開講予定
-------	-------	-----	------	-----	-------------

■講義目的

主に日本を素材として、医療・介護に関わる経済問題を理解することを目的とする。

■教科書<著者『タイトル』出版社、出版年>

現時点では特に指定しない。第1回の講義時点で、最新の資料(図書・論文、政府刊行物を含めて)の紹介を行う。

■各回ごとの授業内容

第1回 1-2 講時

1. 現在の日本の医療・介護を考える上で、もっとも重要な人口問題を次の視点から議論する  
少子高齢化、人口都市集中と超高齢化、これらの医療・介護への影響。
2. 社会保障制度における医療・介護の位置づけ

年金制度、福祉制度などにもふれながら、社会保障全般との関連で、医療・介護の位置を考える。国際比較も行う。

第2回 3-4 講時

3. 市場・政府・互酬制度などの各種経済制度の解説

医療制度・介護制度についての伝統的な経済学の説明と社会学的な考察、営利・非営利の意味やイノベーションについても考える。

4. 医療保険制度の概要

歴史的な視点を交えて保険制度の意義と現状を、経済学的視点から考える。あわせて国民医療費の規模や構成を国際的視点から説明する。

第3回 5-6 講時

5. 介護保険制度の概要

歴史的な視点および近未来の重要課題としての介護保険制度を議論する。あわせて第7回の講義のディスカッションのテーマを設定する。

6. 病院経営と医療経済

公的病院と民間病院・診療所の機能を視野におきながら、医療機関の経営をマクロ的な見地から考える。

第4回 7-8 講時

これまでの講義を振り返り、その時点でのトピックを取り上げ、ディスカッションを行う。

いくつかの代表的な疾病・傷害に分けて、患者の行動、医師の行動、コワーカーの行動などの分析の進め方を講義する。

第5回 9-10 講時

診療報酬制度の意義について、経済学的視点だけでなく、政治学的な観点からも議論する。

医療・介護従事者(医師・看護師など)の労働市場の現状と将来

第6回 11-12 講時

薬剤の経済学：国民医療費の約20%を占める薬剤の位置づけについて考える。

薬剤だけでなく、各種医療技術などを例にとって、医療の費用対効果分析の手法を講義する。

第7回 13-14 講時

医療にはさまざまな不確実性が伴うため、医療を統計学的に把握することの重要性について考える。

医療を経済学的に分析する時にもっとも重要な視点が何かについての課題を提供し、第14回の講義のディスカッション課題を提示する。

総合ディスカッション：受講者同士をいくつかの立場に分けて、前回に提示した課題をディベートする。

■授業方法

14コマの講義のうち、3回をディスカッションにあてる。その他は、パワポを用いた講義

■参考文献<著者『タイトル』出版社、出版年>

現時点では特に指定しない。第1回の講義時点で、最新の資料(図書・論文、政府刊行物を含めて)の紹介を行う

■成績評価の基準と評価方法

平常レポート(04) 40%「書く能力」を重視

その他(99) 60%ディスカッションのさいのプレゼン資料作成能力(30%)、ディスカッションと出席点(30%)

■準備学習等についての具体的な指示および他の科目との関連

第1回の講義時点で、参考文献のリストを配布する。その後も適宜指示する。最新の政策トピックを扱うことも多いので、毎回指示した資料の事前予習を求める。